

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「家庭的な環境と地域住民との交流の下で、その人の個性を尊重し、尊敬の心を忘れず、なじみの関係を築きながら、住み慣れた環境のもとでその人の地域生活の継続を支援します。」</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>ホーム内及びスタッフルーム内に理念を掲示し、日々の勤務の中で実現に向けて援助にあたるよう職員の意識向上を図っています。</p> <p>申し送りやミーティング時に、理念が実践できているかの確認をする機会をもち、全スタッフが理念を暗唱できるよう努めています。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議で常に理念を課題に取り上げて、委員の皆様にご理解いただくこと、また、御家族にも面会時等に実践できているか伝えられるよう努めています。</p>	<p>運営推進会議委員以外の地域住民へもさらなる啓発が必要であると考えています。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常的に、散歩の機会を作り近隣の方と触れ合い、挨拶をかわす等の努力はしています。</p> <p>しかし、住宅地や商店街が近くに無いため、十分なコミュニケーションの確保できてないのが現実です。</p>	<p>ポートアイランド内に、複数の大学が設立されており、学生の方との交流等も今後取り入れていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>隣接の介護老人福祉施設が、催される夏祭りへの参加。保育園のクリスマス会等の行事への参加等しています。</p>	<p>近隣の大学を尋ねボランティア受け入れの依頼をしています。ボランティアクラブのある大学もある為、地域とのつながりの一環としても、継続した繋がりを築いていきたいと考えています。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>	<p>ポートアイランド内の大学や、それ以外のボラン ティア等の受入を積極的に行っています。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 第三者評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>第三者評価を受ける意義や、評価を受けること によりサービスの質の向上に繋げることを全スタッ フが共通認識できています。 前回の改善事項等をスムーズに改善することによ り、よりよいホーム作りを目指しています。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>	<p>スタッフ側が一方向的に会議を進めるのではなく、 参加メンバーからの意見や要望等の忌憚りの無 い意見を聞かせていただき、その意見等をサー ビスの質の向上に繋げるため、積極的に取り入 れるよう努めています。会議の内容は全職員へ議 事録等を通じ共有しています。</p>	
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以 外にも行き来する機会をつくり、市町とと もにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業運営を行っていくうえで、問題や疑問点があ れば、 市町村担当者と相談しながら課題解決をしていま す。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援してい る</p>	<p>管理者や介護リーダーなどの一部職員は制度の理 解ができているが、全職員が学んだり説明したり する機会も持っていない。</p>	<p>全職員がその必要性を認識できる学習機会を確保 していきます。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常に利用者の表情や行動を観察し、不安や不満がありそうな時は、さりげなく声かけをしています。</p>	<p>現在のところ、定期的に利用者の要望や意見を聞く機会は作れていません。 運営推進会議への参加等、定期的な場作りが必要であると考えています。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ご家族の来訪時に、心身の状況やホームでの暮らしの様子を報告し、ご家族のご意見も聞かせていただいています。また、定期的に金銭出納状況を報告したり、ホームだよりを発行しています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時等、スタッフから一方的に話しかけるのではなく、ご家族が意見・不満・苦情等を発言しやすい雰囲気づくりを常に心がけています。いただいた苦情等は、スタッフ間で話し合い、即サービスに反映させるよう努めています。</p>	<p>現在のところ、家族会等の定期的なご家族の集まりの場が設けられていません。 今後、家族同士が集まれる場を確保することが必要と考えています。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営に関する職員からの意見は、法人代表者をまじえて相談にのれる体制です。新規利用者の受け入れや、職員交代、運営方法等は、現場スタッフの意見も聞き入れながら運営にあたっています。 風とおしのよい職場です。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員数は、余裕をもったシフトが組めるように人員確保しています。 夜勤者は、夜勤専門の職員ではなく、日勤もすることにより日中の利用者の様子も把握できるようなシフトを組んでいます。緊急時は、管理者をはじめ近隣職員による応援体制がとれます。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ご家族・利用者とのよりよい人間関係「馴染みの関係」をモットーに、異動や離職は極力無い様努めています。 やむを得ず異動や離職がある場合は、引継ぎの期間を十分に確保し、利用者へ影響を与えないよう努めています。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質や技術の向上は、ホームの質の向上に繋がります。認知症介護実践者研修や認知症リーダー研修等、個々のレベルに応じて、毎年順次受講させています。 また、その他の外部研修・内部研修も積極的に参加させることとしています。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在のところ、他法人の同業者との交流は積極的に行えていません。		今後の課題として、市内にある同業者等との交流の機会の確保が必須と考えています。 交流することで、お互いのホームの質の向上や、職員育成に役立てたいと考えています。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者・管理者は職員の話をよく聞き、さりげなく職員の不満や悩みを聞きだすように努めています。 また、スタッフルーム横の休憩室にも、カーテンを設置し、職員が利用者から離れ一息入れることのできる空間を確保しています。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者・管理者は職員の勤務状況や、個々の努力姿勢を把握しています。 介護福祉士や介護支援専門員等の資格取得に向けた支援を心がけ、職員が意欲を持って勤務できるよう努めています。それに関する研修へも積極的に参加させています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>サービス提供前には必ず、本人と話し合いの機会を持ち、まず本人の話を傾聴し不安や悩みを少しでも解消することや、安心感を得ていただけるよう努めています。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>まずご家族の話を傾聴し、不安や求められていることなどの家族状況の把握に努めています。ご家族が求められている事に対して、事業所として「出来る事・出来ないこと」など、ゆっくり時間をかけて話し合っています。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人・家族がまず必要としていることの把握に努めています。 当方で早急な対応が困難な場合などは、関係の地域包括支援センターや居宅介護支援事業所への連絡調整や情報提供を行い、家族の必要としていることが達成できるよう支援しています。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>まずは、ご家族と本人に事業所や入居予定の居室を納得いくまで見学していただき、スタッフとも関わりを持っていただく中で安心感を得ていただくよう努めています。やむを得ず急に入居になった場合は、今までの関係者（居宅介護支援事業所のケアマネ）等に面会に来ていただきご本人が安心されるよう努めています。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の先輩として尊敬の心を全職員が共有し、支援する者、される方との認識を持たず接しています。 職員がご利用者から教えていただいていることを、常に意識して業務にあたっています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	ホーム側で利用者の事を全て一方的に援助していくのではなく、ご家族と共に考え、情報交換をし、共に生活していく認識で人間関係を築いています。 必要時は強制ではなく、さりげなく協力を得られるようお願いしています。		
29 利用者ごとの家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者ごとの家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者ごとのご家族との関係が疎遠にならないよう、お互いの思いを把握し、ご家族にはご家族としての役割を自然な形で担っていただくよう努力しています。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の今までの人間関係や馴染みの場所等との関係が途切れないよう心がけています。 例えば、前に入所されていた併設施設での友達に定期的にホームに訪れていただいたり、入居前のかかりつけ医への継続した通院をご家族とさせていただきます。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	どうしても人間関係の善し悪しはあります。職員全員がそんな状況を把握し、孤立を防いだり、それぞれの個性をうまく活かす方法を考えて、利用者全員が支えあえるよう努めています。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今までの契約終了事例は、転院や介護施設入所がほとんどです。例えば、身体状況が理由で併設介護保険施設に入所された場合などは、継続的にスタッフが面会に行くようにしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個々の思いや、やりたい事の把握については、日々の会話や利用者の態度から、「さりげなく・自然に」をモットーに把握するよう努めています。</p> <p>把握が困難な利用者の場合は、利用者の立場にたって考えてみたりご家族や関係者から情報を得ようとしています。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人以外にご家族や関係者からも、今まで地域の中でどのような生活をされてきたかを、一度にではなく少しずつ把握するよう努めています。</p> <p>プライバシーに配慮しながら情報収集することを管理者をはじめ職員全員認識しています。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個々の排尿や排便の時間帯や量の把握をしたり、一日全体の本人の生活リズムを把握し、集団として動くのではなく、個々のリズムに合わせた生活をしていただくことをモットーに援助にあたっています。</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>画一的な介護計画ではなく、本人やご家族・関係者の意見も取り入れ、スタッフ全員の意見を総合的にまとめたうえで、利用者本意の介護計画作成を心がけています。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に期間が終了する前に見直しを行っています。</p> <p>また、利用者に変化があった時や、本人・ご家族の要望が変わった時などは、期間が終了することに関係なくその都度、必要に応じて見直しをしています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録以外に、個別の水分摂取量や排泄の記録をしています。 申し送りノートも必ず出勤時にスタッフ個々に目を通すルールを作っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や通院などにおいて、利用者やご家族の都合に応じて柔軟な体制で対応できるよう心がけています。 要望や状況に応じて、必要なサービスを柔軟な姿勢で提供することが大切であると認識しています。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源の活用に関しては、本人や家族等の必要性に応じての対応はまだまだ不十分と思われます。		利用者が安心して暮らしていけるよう、地域資源をさらに活用していくことが必要です。
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在のところ、積極的な支援は行えていません。		利用者の生活をより総合的に支援する為、介護保険外のサービスも含め、積極的に他事業所等と連携を図っていくことが必要と考えています。
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加していただくようになり、今までよりも情報交換ができるようになり関係も密になりました。		さらに関係を深め、協働しながら利用者が地域資源を活用できるよう努力します。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居前や入居後も利用者の希望や状態、家族の意向を取り入れて決めています。入居前の在宅からのかかりつけ医と信頼関係ができていれば継続することにより利用者も安心されています。また必要に応じ、家族が付き添いできない時はホームスタッフが受診に付き添いしています。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設施設に精神科の医師が勤務されており、必要に応じて助言を得ることができます。また、ホーム近くのクリニックの医師に気軽に相談できる体制ができており、運営推進会議にも委員として参加していただいています。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の介護保険施設の看護師に気軽に相談できる体制です。利用者の医療的な状況も周知してもらっている為、夜間なども電話で相談ができます。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	適宜、医療機関の主治医・看護師・ケースワーカーと連絡をとり病状確認をしたり、管理者やスタッフも面会に行き確認しています。どうすればスムーズに退院できるか等を、ホーム側からも必要な情報を提供しています。また経過をご家族に随時連絡しています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方に関しては、「できるだけ早い段階で」を心がけて本人や関係者と相談しています。当事業所で「できること・できないこと」をはっきりさせ、御家族にご理解をいただくよう、できるだけ密に連絡を取り合い話し合いをするようにしています。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期については、できるだけ早めの対応を心がけてご家族と相談しています。また、かかりつけ医療機関とも今後のことについて連絡を取りながら、あらゆる事態を想定して準備することに努めています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員採用時には守秘義務の徹底を図っています。また業務中も、なにげない一言がプライバシーを損ねないように常に意識することとしています。管理者やリーダーが職員の言動に気を配り、必要時は職員に注意をし、プライバシー確保の意識向上に努めています。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	「さりげなく・自然に」利用者に声かけをし、利用者が何をしたいのか、何を考えているのか引き出すようにしています。押し付けではなく、選択肢をもっといただくことを基本としています。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	「ゆっくり・ゆったり」をモットーとし、ホームや職員側の都合をおしつける事はしないよう徹底しています。基本的な一日の流れは持っていますが、あくまで本人のリズムに合わせて一日を過ごしていただいております。	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	一人ひとりに合わせ、さりげなく声かけ・支援するよう心がけています。理美容は、できるだけ本人が望む店へ行ける様にご家族に声かけはしています。	月に2回、出張で理美容院に来ていただいております。それ故に外出して他の店へ行かれる機会が減ってきています。今後の大きな課題と認識しています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>今後の課題としては、献立から食材調達等の一連の流れを利用者とともに行っていくことを月のうち何回かでもできればと考えています。</p>
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		<p>回数制限を設けず、柔軟な対応が必要と考えています。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>日々の暮らしを活力あるものにしていただく為に、個々の得意分野を生かしての役割分担や楽しみごとを作っています。</p> <p>職員がおしつけるのではなく、職員が教えていただく観点で取り組んでいます。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		<p>利用者の希望にそって外出することが必要である。</p> <p>職員側が「今日はあそこへ行く」とするのではなく、利用者が「今日はあそこへ行きたい」に答えていきたい。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		<p>必要であればご家族の協力や理解も得て、実現に向けて検討していきます。</p>
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		<p>併設の介護保険施設とともに「身体拘束廃止委員会」を設置し、月1回の委員会に参加しています。</p> <p>事例検討等を通じ身体拘束に対する知識の向上を図れています。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		<p>併設介護保険施設の医療従事者に頼ってばかりではなく、ホームスタッフで対応できることは自主的にこなせるよう今後研修や技術・知識習得の機会の確保を図ります。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>地域の人々の協力については、現在のところ話し合いの場をもっていません。今後、運営推進会議等を通じて理解を得、協力いただける体制作りをします。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒される危険など、事前にご家族に説明させていただいています。転倒される危険性があるからといって行動を抑制したりすることはないことをモットーとしています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しの変化や異常・いつもと違った表情等の観察を意識しています。 少しでも「今日はおかしいな?」と感じた職員は、その日の勤務者に相談したり管理者に報告する体制が確立できています。		
74 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬効が分かるシートを作成しています。 またカルテにも処方内容の記載したものを保管しています。 症状に変化があったり、服薬に迷うときはかかりつけ医に相談するとともにご家族にも報告しています。		
75 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維を取り入れた物を取り入れるよう、併設介護保険施設の管理栄養士にも相談しています。 また日常生活の中では、朝のラジオ体操に始まり運動量の確保に努めています。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後3回の歯磨きをしています。 義歯の方は1日1回ブラッシングをし、週2回洗浄剤で洗浄しています。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分摂取量は日々記録しています。 水分摂取量が少ない方は、記録を確認のうえ必要量摂取していただくよう自然に促しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	併設の介護保険施設とともに「感染防止対策委員会」を設置し、ホームからもスタッフが交代で参加しています。 マニュアルもあり、それにそって感染対策を実行できています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板などの調理用具は定期的に漂白などを行い衛生管理に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランターや鉢植えを数多く設置し、明るく親しみ感のある玄関先としています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの飾りも季節にあったものにしていきます。 あくまで自然体の感覚を意識し、五感に働きかける空間作りを心がけていきます。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに置くソファの位置を1箇所だけでなく数箇所設置し、観葉植物等で区画をつけています。 廊下窓際には、小さなテーブル・椅子を置き外を眺めながらくつろいでいただける空間を作っています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた物をできるだけ持ち込んでいただくようご家族にお願いしています。馴染みの写真や机等を使用させていただくことで、本人の混乱を防いだり安心感をもっていただくことができればと考えています。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常にスタッフが気配りをし、空調管理に努めています。冷暖房に頼りすぎず、なるべく自然の風を取り入れることを基本としています。また、職員の感覚を基準とするのではなく利用者個々に合わせた温度調節をしています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すり設置、廊下幅等の環境は十分配慮出来ているが、一人ひとりにあった環境整備ができていないかといえ、まだまだ工夫が必要かもしれない。		例えば、手すりなどは開設時設置されたものであり、利用者一人ひとりの状態に合わせたものではない。今後、個々に適した柔軟な環境整備が必要と考えています。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者一人ひとりの「わかる力」を見極める努力をし、職員全員が共通認識したうえで、利用者が不安や混乱を招かないような環境整備に努めています。		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	建物周りは、畑部分の他にプランターや鉢植えを多めに設置しています。畑では夏にはスイカ、秋には枝豆など季節に応じた野菜等を栽培しています。利用者の方が朝や夕方に水やりなどの世話をさせていただくことを日課にさせていただき、生きがいに繋げています。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者に心地よく生活していただく為に、職員間の人間関係を良好に保つことを常に意識しています。職員間の信頼関係は良好で気持ちのよい職場です。

ホーム周りに畑や、鉢植え等の自然を意識した環境を整えています。利用者が水やりや世話していただくことで植物が育つ喜びを感じていただけます。

一日の基本的な流れはありますが、あくまで『一人ひとりのリズム』を意識し生活していただいております。

併設の介護老人保健施設があり、医師・看護師へ相談やアドバイスを受けることができる体制です。